



## 新型コロナウイルス ウィルス感染症 医療的対応、 要求運動の先頭に

4月1日付で理事長に就任いたしました、田端志郎です。私は1989年に大阪市立大学医学部を卒業し、すぐに耳原総合病院で医師研修を開始しました。その後は循環器内科、救急医療を中心として耳原総合病院に勤務してきました。今年で32年目になります。理事長就任にあたり、その責任の大きさに身の引き締まる思いです。どうぞよろしくお願いたします。

「あれば救急搬送先が見つからない」など、この堺の地においても「医療崩壊」と言える状況が広がっています。

耳原総合病院では比較的早い段階の2月10日から、同仁会では2月18日から対策本部を設置し、3つの基本方針①「高リスク者を守る」、②「各事業所が必要とされる機能を果たす」、③「事業を継続する」をもって、感染予防に大きな労力を割きながら患者さん、利用者さんに対応してきました。また健康友の会みみはらでは、班会などの活動を停止しながらも、地域の方たちの安全を確認する活動を計画しています。現在、耳原総合病院をはじめ同仁会の全事業所で発熱・呼吸器症状・肺炎の患者さんを受け入れながら、地域の医療



# 「みみはらグループ」の強い連携で もっと大きな力の発揮へ

理事長就任のごあいさつ

社会医療法人 同仁会 **新** 理事長 田端 志郎

・介護活動を維持するべく奮闘しています。  
新型コロナウイルス感染症との闘いは、長丁場になるでしょう。箱根駅伝に例えるならば、「往路1区」をまだ走り切っておらず箱根の山々が目の前にそびえ立っている感じです。私たちが身体の健康だけでなく心の健康を保つために、今こそ人間らしさを発揮して共感的に「コミュニケーションを行い、お互いを支えあう時期」です。

また、政府や行政に要求すべきことを要求しなければ、「新型コロナウイルス関連死」として人の命が奪われる可能性が高くなっています。私は歴史ある同仁会理事長として、医療的対応の先頭に立つとともに、社会的な要求運動の先頭にも立ちたく決意です。また、同仁会の今後の事業計画にも、新型コロナウイルス感染症の存在を盛り込んでゆきます。

## 改めて同仁会理念の 言語化と実践

さて、今年は1950年に耳原実費診療所が開設されてから70周年に当たります。この節目の年に、「同仁会は何を目指す組織なのか」を全役職員、労働組合と友の会で改めて言語化することを提起します。同仁会の理念は「一視同仁」です。これは「全ての人を分け隔てなく平等に愛すること」の意味ですが、「一視同仁」の一言では内外に説明がしにくく、「無差別平等」の理念以外にも社会的に意義のある様々なことに取り組んでいる同仁会の優位点をアピールできないと考えています。

この1年間をかけて、私たちが大切にして目指しているものを議論し、深めてゆきたいと思えます。同仁会理念の策定作業を通じて、多くの学びと前進が得られ、今年を期待します。理念は唱えられるだけでは何も生みだしません。理念を実現するための日々の実践が必要です。私たちが目指す「無差別平等の医療・介護・福祉」や「健康で安心して住み続けられるまちづくり」は、同仁会と友の会だけで成し遂げられるものではありません。

私たちが取り組んでいる事業の社会的意義をもっと上手に外部にアピールし、公的組織、行政や医師会、各種団体と接点を多く持つて協力関係を築いてゆきたいと思えます。また、これからの同仁会を担う若い職員たちが主体的に意見を述べてそれが実践に活かされるような組織づくりを目指します。

(2画下段に続く)